

## 日本型表現・ダンス学習の海外輸出から日本へのフィードバックの試み

前上海日本人学校虹橋校教諭

宮崎市立小戸小学校教諭 野邊 麻衣子

キーワード：在外教育施設、体育科学習、表現・創作ダンス、主体的・対話的で深い学び

赴任校の概要（2022年8月1日現在）

学校名・日本語：上海日本人学校虹橋校

U R L：<http://www.srx2.net.cn>

### 1. はじめに

海外にいながら日本型教育を受けられることが魅力である日本人学校。体育科学習もその1つで、芸術家が参画する協働学習により学びに深まりのある授業を实践したいと考えていた。しかし、2020～21年度は、海外への渡航が制限されたため、日本で行っていた対面型ではなく、オンライン遠隔授業に切り替えて実践を試みた。ここでは、2021年度の実践の概要と、帰国後日本にフィードバックするために作成した指導ガイドの2つを紹介したい。

### 2. 芸術家×教師が協働する表現・ダンス遠隔授業

自身は、虹橋校に赴任する前の所属校（宮崎大学教育学部附属小学校）時から、芸術家と教師が協働する表現・ダンス学習について研究\*1してきた。虹橋校でも、共同研究者である高橋るみ子氏（宮崎大学産学・地域連携センター／舞踊教育）とコンテンポラリーダンスカンパニー「んまつーぽす」\*2との協働実践をすることができた。加えて、虹橋校では学校を飛び越えて深まりのある学びを実現する研究をしていたこともあり、先生方の実践に対する積極的な姿勢を得ることができた。概要は次の通りである。

#### (1)事前打ち合わせ

上海側（実施学年の担当教員）と日本側（芸術家）をオンラインで繋ぎ、実践の目的や内容などを約1時間にわたり共有した。目的の共有は特に重要で、学校側がこの実践で期待している子どもの姿を芸術家が把握すること、そして芸術家がこの実践でねらいとしている考えを学校側が理解すること、これらの共有なくして協働の授業は成り立たない。また、上海側の機材の確認やカメラで捉えられる活動範囲の設定など、遠隔ならではの確認も細かく行った。

#### (2)授業の概要

- ①実施学年 第6学年（4学級86名）
- ②実施方法 芸術家が参画する教師支援型の遠隔授業\*3
  - 上海側：担任、指導補助2～3名、観察の4～5名
  - 日本側：芸術家3名、観察者、記録の5名
- ③実施時間 2時間連続（90分間）の体育科学習
  - 前半45分：各学級それぞれ教室で実施
  - 後半45分：2学級ずつ体育館で実施
- ④授業の内容



「ゲームごっこ」で動く子ども達



モニターで子ども達を見ながら見本を見せる芸術家

○前半 45 分

- ・芸術家と出会い、芸術家のことを知り、自分達のことを知ってもらう。
- ・ダンス教材「ゲームごっこ」のやり方を知る。
- ・命令する側、される側を実際に体験する。

○後半 45 分

- ・グループごとに分かれて役割（1番の人、2番の人など）を決める。
- ・命令カードを使って「ゲームごっこ」をやってみる。
- ・互いの「ゲームごっこ」を見せ合い、学習を振り返る。

(3)事後の振り返り

①子どもの感想

- 自分で動きを考えるのは、まるでプログラマーになった気分だった。
- 私はゲームが好きで昔はフォートナイトをやっていて、私達は動かないで楽しんでいただけ、今回は自分達が動いてゲームの動きを表現したので楽しかったです。
- 今回の授業を通して本当に未来を感じました。今、僕達にしたことは未来ではゲームの中に入るのが可能になってくるのかなと思いました。また、ゲームのキャラクターは「はーはー」しないけれど、人間だからこそ「はーはー」するんだなとも思いました。とてもダンスに興味湧きました。
- ゲーム依存が多い世界になっていくことに関して、僕はゲームが好きで毎日多くのゲームをしているので、これから身体を動かす活動を積極的にしていこうと思いました。

②担当教員

- 今の子ども達に身近なゲームを教材にしている、興味関心が高かった。
- 普段とは違う子どもの表情を見ることができ、今まで見えなかったよさの発見に繋がった。
- 表現・ダンスの指導をどのようにしたらよいか悩んでいたが、芸術家の人の流し方や声掛けがとても参考になった。
- 自分で「ゲームごっこ」の授業ができるかと考えると不安である。

### 3. 誰でもすぐに実践できる指導ガイド\*4の作成

芸術家との協働は、指導の効果を最大化する手立てとして非常に有効である。しかし、いつでもどこでも実現できるとは限らない。そこで、芸術家と協働した前述の学習を単元化し、誰でもすぐに追試できるような指導ガイドがあれば、虹橋校での実践を日本にフィードバックすることができると考え、指導ガイドを作成した。

また、従来の「指導案」ではなく、「指導ガイド」としたのは理由がある。現場で多忙を極める先生方が、簡単に指導法を理解することができ、「やってみよう」と明日の授業にワクワクするような資料にしたかった。よって、文章中心の指導案との差別化を意識して、画像で子どもの姿をより把握しやすいようにした。加えて、学習過程やワークシートなどに細かな注釈を挿入した。これは、芸術家との協働学習で見えてきたり、自身の担当学級（第2学年）で実践した際に気付いたりした指導のポイントを分かりやすく書き加えたものである。

虹橋校は、校務や授業のICT化が急速に進み、クラウドの利用やペーパーレス化が当たり前になっている。日本の学校現場も、少しずつICT化が進んでいる。タブレット端末で指導ガイドを確認しながら指導する姿を想像し、PPTで作成したことも追記したい。実践後に、画像や感想等を自分の学級の子供達に変更するなど、実践記録としても活用することができる。表現・ダンスだけでなく、どの教科等の学習にも使える未来の教室の指導案として、この指導ガイドを提案したい。

(1)モデルとした実施学年

①虹橋校第2学年 25名

(2)指導ガイドの内容

①この指導ガイドについて

- ・背景にある考えについて

②授業デザインモデル

- ・単元目標、単元について、単元計画、事前準備、命令カード、ワークシート、学習過程

③子どもの声

- ・事後の振り返り、事前と事後のアンケート結果

4. 終わりに

子どもに「生涯学び続ける力」を育成したい。そのために、まずは教師自身が生涯学び続ける背中を見せなければならない。刻一刻と変化する時代の流れを読み、同じ明日は来ないことを楽し

める心の余裕をもちたい。だからこそ、学び続ける職員集団を形成し、互いに感謝とリスペクトの精神で学校づくりを進めていく必要がある。このような、ここには書き表しきれない多くの学びを得ることができた3年間であった。幸運にも出会うことのできた子ども達と保護者の方々、そして同僚と家族のみなさん、出会った全ての人々に感謝したい。今年度の前期も、オンライン授業を続けざるを得なかった虹橋校の仲間達へエールを送り、報告とさせていただきます。

<脚注>

\* 1 宮大附小での取組 [https://miyazaki-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=5810](https://miyazaki-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=5810)

\* 2 コンテンポラリーダンスカンパニー「んまつーポス」HP <https://nmatuposu.wixsite.com/namstrops>

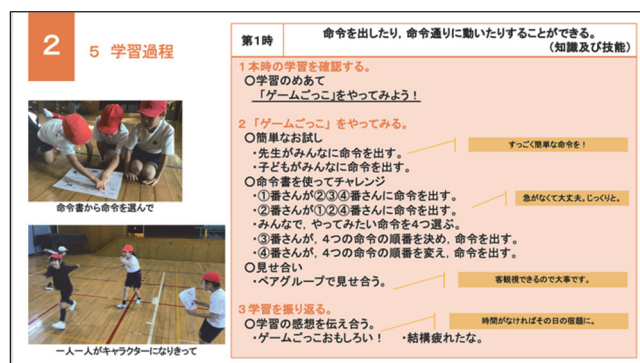
\* 3 遠隔授業の類型

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/09/14/1409323\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/09/14/1409323_1_1.pdf)

\* 4 めいれいどおりすすめ！「ゲームごっこ」をしよう！授業デザインモデル指導ガイド↓



指導ガイド10頁「命令カード」



指導ガイド12頁「第1時の学習過程」

